

しもつま歴史探訪始まる

街なか案内板整備事業「しもつま歴史探訪」については、広報しもつま5月号で紹介したところ。本事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開始を延期していましたが、6月12日(金)から開始しました。

下妻駅周辺の歴史に関する施設20カ所に街中を巡る案内板と、併せて施設の特色を現した印(シンボル)を設置したことで、集印しながら案内板を巡ることが出来ます。集印するには、別途「集印帳」の購入が必要となり、価格は1冊500円(税込み)。道の駅しもつま「お土産・コンビニコーナー」、Waiwaiドームしもつま「事務所」、下妻市観光交流センターさん歩の駅サン・SUNさぬま「下妻マルシェ」で購入することができます。20カ所全ての印を集めると、特製ハンドタオルがもらえます。(受取場所はWaiwaiドームしもつまおよび下妻マルシェ)

開始日となった12日には、下妻市観光交流センターさん歩の駅サン・SUNさぬまで開始式が行われました。出席した「下妻いいとこ案内人会」の粉川孝会長は「下妻の魅力を伝えたい」と意気込みを話しました。



案内板を紹介する粉川会長

市内中学生に学習支援用タブレットを貸与



オンライン学活中の生徒と教師(下妻中)

市立中学校に通う全ての生徒に自宅でのオンライン学習環境を整備するため、学習支援用タブレット200台を購入し、そのタブレットを自宅にインターネット環境が整備されていない生徒に貸し出す事業を始めました。

6月3日に、本事業の一環として、市長、教育長、校長出席のもと、下妻中学校において、タブレット貸与式を行いました。

休校期間が長期化する中で、市では中学生の自宅での学習を支援するため、英語や数学の学習動画の配信を開始し、自宅学習を支援してきました。

一方で、一部の生徒の自宅にインターネット環境が整備されていない状況があったため、全ての中学生が自宅でもインターネットによる動画の閲覧などができるようにすることを目的に、学習支援用タブレットを整備し、必要な生徒に貸し出せるようにしました。

下妻中3年の生徒は、「オンライン学活は、自宅にしながら担任の先生から直接連絡を受けることができると良かったです。直接会うことなくクラスメイトが元気なことが分かるのは、ソーシャルディスタンスとなりいいなと思いました」と話しました。

有料広告欄

有料広告欄

まちのわだい Town Topics

飲食店から下妻を元気に明るくしたい

がんばっぺ!しもつま 6月21日

飲食を通して下妻を盛り上げようと、22店舗が集まって、自慢の商品やテイクアウトメニューを販売しました。会場となったWaiwaiドームしもつまでは、入場の際に、来場者一人一人の検温、消毒を徹底していました。場内が密にならないようにするため、列ができて十分な間隔が取れるよう並び方などを工夫していました。

主催者である「がんばっぺ!しもつま」代表の井上誠さんは、「新型コロナウイルスにより生活様式が変わり、市内の飲食店はそれぞれの創意工夫でがんばっています。また、市民の皆さんにも元気をお配りしたい」と話しました。

※開催当日は、茨城県が定める「茨城版コロナNEXT」に基づき、各ガイドラインを遵守して感染症予防対策を講じて開催されました



左から荒川さん、菊池市長、大竹さん

下妻のまちづくりに貢献したい

地域おこし協力隊員委嘱 7月1日

下妻市初の地域おこし協力隊2人が就任し、7月1日に委嘱式が行われました。地域おこし協力隊とは、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PRなどの地域おこしの支援などを行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。

今回就任したのは、荒川安莉さんとおおたけ えりかさんの2人で、荒川さんは、「下妻の知名度を上げたいです。将来的には、地場産野菜を使ったカフェなどを開店したい」と、大竹さんは、「大学在学時から下妻のまちづくりに関わってきました。下妻市民の立場となって、地域に貢献したいです」と話しました。

有料広告欄



小貝川祝橋上流で打ち上げられた花火

全国一斉悪疫退散祈願

Cheer up!花火プロジェクト 6月1日

新型コロナウイルス終息を願い、日本全国の花火業者が協力して「全国一斉悪疫退散祈願Cheer up!花火プロジェクト」が実施されました。全国約160の花火業者が各地で一斉に花火を打ち上げる企画に賛同し、市内では、丸玉屋(株)と丸玉屋小勝煙火店(株)の2社が参加しました。

見物客の密集、密接を避けるため、会場は非公開のまま行われましたが、市内では、小貝川・祝橋上流と、ピアスパークしもつまの2カ所で花火が打ち上げられました。